［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 2月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1072100066
法人名	有限会社 あいあいえす
事業所名	グループホーム あいあいえす
所在地	高崎市棟高町1259-7 （電 話） 027-372-8436

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年2月12日

【情報提供票より】（ 平成21年 1月 28日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 10人 非常勤 3人 常勤換算 6.7人	

（2）建物概要

建物構造	木構造造り
	2 階建ての 1 階 ～ 2 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（月額）	40,500 円（30日分	その他の経費（月額）	共費600円/日 家電持込料100円/日 義歯洗浄剤	
敷 金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	250 円	おやつ	50 円

（4）利用者の概要（ 1月 28日現在）

利用者人数		9 名	男性	2 名	女性 7 名
要介護1		1 名	要介護2	3 名	
要介護3		1 名	要介護4	2 名	
要介護5		2 名	要支援2	0 名	
年齢	平均	85.7 歳	最低	71 歳	最高 99 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	岸医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの理念を、「あなたが、あなたらしく、自由に生きる場の提供をめざします」と掲げ、入居者の自分らしく生きられる生活を大切に支援している。職員は、入居者の生活を支える日々の介護の中で「あなたらしい」とはどういうことか、「自由」とはどういうことかなど、理念に添った介護を考えながら入居者に向き合っている。事例研究にも積極的に取り組まれ、困難事例を検討し日々の介護に活かしている。ホームは、「個々の能力に応じた生活」「寄り添ったケア」「地域の中で住み続ける」ことを大切にしていきたいとしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

外部評価を気づきの機会として課題を全職員で検討し解決に向けて前向きに取り組んでおり、地域との連携、災害対策、水分確保の支援は検討され改善された部分も多い。しかし、改善計画が明確にされていないため、改善途中のものが不明確になってしまっている。改善計画シート等を活用して、全職員に取り組みの状況が分かることを望みたい。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価は、職員や運営者に意見を聞きながら、管理者が作成している。自己評価は、日頃の取り組みを見直す機会であるので、職員も一緒に自己点検する事を望みたい。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、全入居者の家族に参加の呼びかけを行っている。地域の方、地域ボランティア、行政等の出席がある。開催内容は、入居者の状況報告、行事や外部評価結果報告、認知症サポーターの呼びかけを行っている。参加者からの意見から、介護人材不足について話し合いも行こなわれている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

家族の面会時や毎月の近況報告を送付する時に、意見や要望を聞く努力をしている。また、ケアプラン作成時、家族からの要望を聞いている。入居者が苦情や要望を表せる場として、相談窓口の説明や介護相談員の訪問を依頼している。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

自治会に入会し、広報誌の配布もされている。地域の祭り・行事に参加したり、近隣の散歩でのやりとりや野菜等の頂き物もあるなど地域の人達との関係作りができている。近隣の方に日々の感謝を込めて入居者が手作りの絞り染めの布袋等を作成し、配布している。また、高校の学園祭にも招待されて参加している。地域の人達が認知症の理解が深められるようなパンフレットを配布、在宅で暮らしている認知症の方を見守っていける地域作りを目指している。

2. 評 価 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からの理念を全職員で見直しを行いながら、「あなたが、あなたらしく自由に生きる場の提供を目指します」を事業所の理念として掲げ、あなたらしく生きるための地域との関わりを大切に全職員で取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、入居者一人ひとりのその人らしいとはどういうことなのか、自由とはどのようなことなのかを、ことある毎に振り返り考えながらケアに向かっている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、どんど焼きやお祭り等に参加したり、高校の文化祭に招待され、入居者と共に参加している。野菜等の頂きものを受けたり、入居者と散歩していると、最近は近隣の方が温かい目で声をかけてくださっている。1年の感謝を込めて手作りの袋物などを入居者と作成し、近隣の方に配布して関係を深めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者が運営者や職員に意見を聞きながら作成し、回覧している。評価後の結果は供覧され、課題は検討されているも、具体的な改善計画が明確にされていない。	○	自己評価は、日頃の取り組みを見直す機会であるので、職員も一緒に自己点検する事を望みたい。また、検討の項目を改善計画などで推移を明確にしていくのも一案と考える。何が改善点なのかを明確にし、職員と経過も共有しながら取り組む事を望みたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催されている。年間を通して全家族が参加出来るよう積極的に呼びかけている。また、地域の方、行政の支所、地域ボランティア、同業者の方が参加している。会議では、事業所から入居者の状況や職員の異動や行事などの報告が行われたり、認知症サポーターの呼びかけや介護人材不足についての話し合いがおこなわれている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	家族会の食事会に、支所の職員に参加していただくなど交流を持っている。介護相談員の受け入れを積極的に行い、認知症サポーター研修には、講師としてホーム職員が出かける等市とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時や利用料支払い時に、介護日誌や日常の様子を写真などを見て頂きながら説明するようにしている。全入居者の家族に、毎月書面で状況報告を担当者が作成し、送付している。また、ホーム通信で職員の異動等を知らせている。その他、必要時は電話等で連絡を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や状況報告時、家族会の時に、意見や要望を聞くよう努力している。苦情相談連絡先を明示し、説明している。介護相談員の受け入れを行い、意見を頂く見直しの機会としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代時は、3週間の研修期間を設けて入居者の情報やケアなどを引き継ぎ、入居者への影響を最小限にしている。職員の異動は、「あいあいえす通信」や運営推進会議で報告している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修として3週間の研修期間を設け、また、法人内の研修は勤務調整を行い計画的に行われている。外部の認知症の研修や研究発表会などへの参加も行われている。研修案内は職員に開かれ、希望すれば出席できる環境にある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会の職員交換研修やブロックごとの研修に参加している。他の事業所の管理者と交流を行い、運営推進会議に参加して頂くなど情報交換の機会をもっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を受け入れる準備はあるが、今までに希望者はいない。見学に来て、一緒に食事をするなどしている。家族のみの場合もある。職員は事前訪問し、生活歴、日常の過ごし方やどんなことに困る様子なのかなど把握して、話を聞きだしたり関心事を探ったりして、できるだけ安心して生活できるよう努力している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜調理の工夫や味付け、白玉しるこ作りを一緒に行っている。また、庭先の野菜作りを種まきから収穫まで入居者にアドバイスをもらいながら行っている。包丁研ぎの得意な入居者は自ら「そろそろ包丁を研ごうか」と声をかけてくださっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴やアセスメントを参考に、家族からの意向や生活時の様子をうかがい意向の把握に努めている。直接希望を伝えられない入居者が多いので、日々の言動や表情を注意深く観察しカンファレンス等で検討している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者を良く理解するために、入居後1ヶ月くらいは時系列で行動や反応の観察をしアセスメントにつなげ、介護計画を作成している。日々の様子は、職員が気づきノートに記載し、参考にしながら本人や家族からの意見を聞き作成し、確認してもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	独自に作成した用紙で毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎に評価し見直しを行っている。職員は気づきノートを活用して介護計画に加えている。状態の変化時は、医師による医療的指示や家族と相談の上、現状にあった計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「認知症110番よろず相談所」の看板を上げ、地域の相談を受けている。緊急時の通院介助や送迎を行っている。また、買い物や犬の散歩も希望があれば同行するなど柔軟な対応をしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人や家族の希望する医療機関を聞き、かかりつけ医を決めている。基本的に家族と受診して頂いているが、家族が行けない時は職員が付き添っている。ホーム内の様子や受診結果など書面を使って情報の共有化を図っている。ホーム協力医の月1回の往診や週1回の訪問看護により、入居者の健康管理が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に希望を聞き、「医療的対応に関わる合意書」をとり緊急時の連絡先や医療機関の希望、治療方針の確認をおこなっている。重度化や状態が変化してきた時は、その都度家族や医師、職員など関係者と話し合い情報を共有し方針を決めている。入院した場合は、時々面会に訪問し家族と情報を密にしている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会話時は、話しかけの言葉や目線に注意している。トイレ誘導時は、他の入居者に配慮しさり気なく支援している。外へ出てしまう入居にも、そっと見守りを行っている。また、記録等の個人情報は事務室で管理され、記録類やケアプランなど日常で使用する書類は、ホールの一角の机下で保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの決まりはなく、自由である。その日の天気や体調、入居者の雰囲気で、どのように過ごすのかを決めている。テレビを見ている入居者、居室で休んでいる入居者、花壇の花に水をあげている入居者など思いおもいに過ごしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回のメニュー会議で、献立を決めている。希望の物を聞いたり、好んで食べている様子などを参考に献立の中に活かしている。また、料理の写真などから入居者と楽しみながら献立を決めている。ジャガイモの皮むきなどの食材の準備や食器の後かたづけを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週4回、午後を入浴日としている。他に、希望時や汚れた時に行っている。その日の状態や気分で入浴出来ない入居者には、支援のあり方を工夫し、入浴出来るタイミングを計り続け職員で共有し入浴していただいている。季節感を持たせたゆず湯や菖蒲湯などの支援も大切にしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農家の経験の豊富な入居者には、種まきから収穫までの野菜の栽培を教えていただいたり、お針の得意な入居者には、台ふきんを作っていただき生活の中で活用している。また、神棚の榊や水の取り替え、甘酒つくり、花壇への水撒き、犬の散歩など役割を持って行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、ホームの庭で花見や日光浴を行ったり、散歩や買い物に出かけたりしている。季節毎の花見、地域の行事に積極的に参加している。家族との外出や外食など必要時は出かけられるよう車の支援もおこなっている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、夜間の戸締まり以外は鍵はかけていない。出入り口に気にならない程度の鈴をつけるなど入居者の行動を察知する為の工夫は図られている。職員は、入居者の動きや行動範囲を日頃の介護から理解しており、見守りや所在確認しながら危険防止に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。1回は消防署の指導の下、もう1回は併設のデイサービスと合同で行っている。通報のシステムも明記されている。しかし、緊急時に地域の人達の協力が得られるような働きかけが確立していない。	○	運営推進会議などを活用し、議題に上げ相談するなど地域からの出席者に協力していただきながら、地域の人に協力が得られるような具体的な働きかけの取り組みを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事や水分の摂取量は確認され、記録されている。水分摂取は800cc以下にならないよう支援し、不足ぎみの入居者には、ヤクルトやジュース類など嗜好に応じての工夫がなされている。提供している食事は、カロリーブックで検討している。	○	健康の基本となる食事になので、専門家にみていただき、およそどのくらいの基本の栄養の食事が提供できているかなどの確認やアドバイスをいただくなど、根拠に基づいた支援を期待したい。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は明るく、神棚が設置され朝の拝礼は日課となっている。調理室・トイレや風呂場が隣接しているが不快な臭いはなく、調理の様子が居間から見え家庭的な雰囲気である。また、お雛さまや季節の花が飾られ、季節感がある。中学生の体験学習のお便りが壁に貼られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族・ふるさとの写真が飾られたり、仏壇や家具・今まで使ってきたものなどが置かれている。こたつで夫婦でお茶を飲みお菓子を食べる楽しみも継続できるよう支援されている。		